

### (8) 牧草定着の良否判断

草地更新後、は種した牧草の発芽・生育状況、雑草の発生状況の確認は重要で、早めに行うことで次の手立てを考える助けとなります。

ここでは、チモシー主体草地の場合を説明します。確認には写真 V-32、V-33 のようなコドラート※を使い 1 m<sup>2</sup>当たりの個体数（発芽本数）を把握します。このときカウントする個体はチモシーのみで構いません（※コドラート法では一定の大きさの方形の区画を設定し、その中を調査します。以下の写真では 50cm×50cm を使用）。

#### 1) は種時の粒数

草地更新時には種されるチモシー種子は、品種により 1 kg 当たりの粒数に違いがあるので、10a 当たり 1.8kg をは種した場合、2,900~5,500 粒/m<sup>2</sup>になります。この後、天候などの影響により全ては発芽定着しないものの、生育していきます。



写真 V-32 は種後 15 日の個体数



写真 V-33 は種後 45 日の個体数

#### 2) は種時の個体数

は種され発芽が揃い生育中（は種後 30 日から 45 日）のチモシーの個体数は 1,500 個体が目安とされます。極端に少ない場合を除き、性急な判断は避け、状況に応じて対応しましょう。

牧草の適正な 1m<sup>2</sup> 当たり発芽本数（は種後 30~45 日後）

1m<sup>2</sup> 当たり 1,000 個体以下 少ない

1m<sup>2</sup> 当たり 1,500 個体以上 安心

#### 3) 越冬後の個体数

チモシーは、は種・発芽後すぐの個体数から刈取り、収穫、越冬することでその個体数を急激に減らしますが、それぞれの発芽した個体は株となって充実していきます。

このため、翌春の萌芽期ころに 300~500 個体/m<sup>2</sup> 程度れば十分定着していると考えられます（図 V-15）。

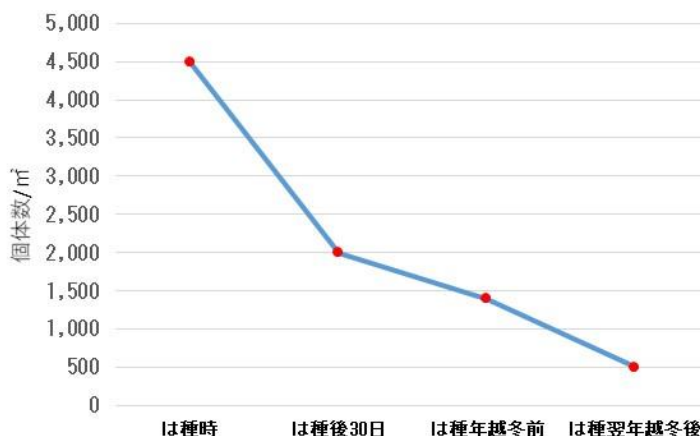


図 V-15 チモシー個体数の推移（は種時から翌年越冬後）